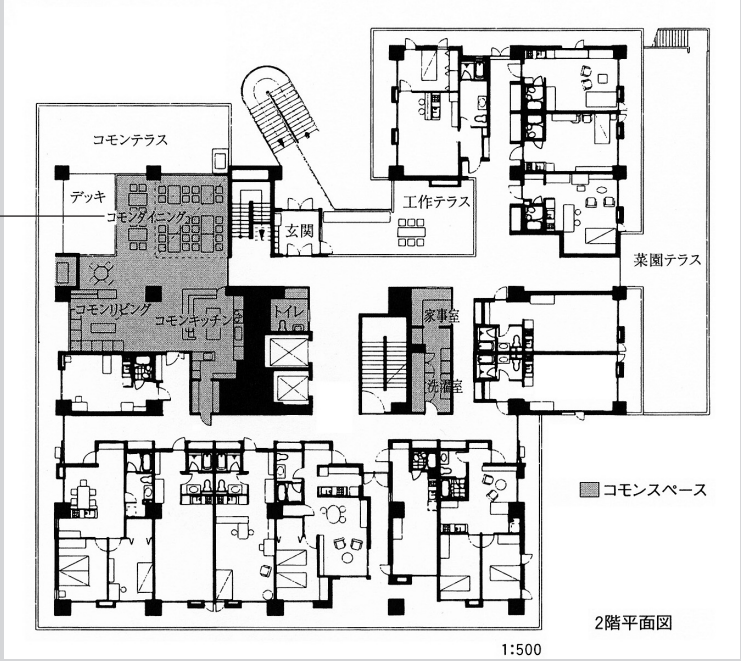
家族的なつながりを育む コレクティブハウスの暮らし

report

自ら選んだコレクティブハウス居住 ―定行泰甫さん―

「かんかん森」のオープニングパーティーで司会進行役を務める定行泰甫さん（中央）

■コレクティブハウス「かんかん森」（東京都荒川区）
12階建て集合住宅の2・3階部分に設計された「かんかん森」。民間の賃貸住宅で、28戸の専有住戸に加え、住人同士が食事や趣味を楽しむ"コモンスペース"を持つのが特徴。オープンの約2年前より、入居希望者・建築家・コーディネーターによるワークショップが開かれ、間取りやコモンスペースの活用などについて定期的に協議を行い、2003年6月に完成した日本初のコレクティブハウスだ。学生や単身者に人気のシェアルームもある。



「かんかん森」2階平面図（小谷部育子『コレクティブハウジングで暮らそう』丸善より）

オープニングパーティーの会場となったコモンダイニング。奥にはコモンキッチンがあり、日常の調理は住人が交替で行う。自主運営のコレクティブハウスでは、住まいに対する意識共有と助け合いの気持ちが大切である

■自主運営の共生型住宅「コウハウジング」（アメリカ・バークレー）
数棟の戸建て住宅、共同のダイニングキッチンなどがあるコモンハウス、中庭、駐車場を配したアメリカの「コウハウジング」。土地の購入から住宅の設計、完成後の運営まで住人が関わり維持されている。コモンミールは当番制で、週3回、住人が集まり大家族のように一緒に食事をする。2001年7月、バークレーで開催された「コウハウジング会議」に、当時高校生だった定行さんが出席。その際、ここで2週間のホームステイを体験した。

定行泰甫さんプロフィール

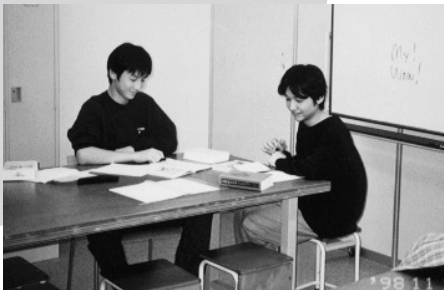
1984年、東京生まれ。保育園を4回、小学校を3回転校し、その後、海外を含め3種類の共生型住宅で暮らす。留学先のベルギーでは「KOT」（学生寮）や「STUDIO」（ロフト付き賃貸マンション）で外国人とのルームシェアを経験。現在、上智大学大学院 博士後期課程 経済学研究科に在籍。今年秋学期よりイリノイ州立大学大学院 経済学研究科博士課程に進学。
tai_rachmaninov@msn.com

■サービス型賃貸マンション「サンセゾンI」（東京都北区）

72戸を有する民間の賃貸住宅。1階と地階に共同の食堂・大浴場・ホビールーム・図書室などがあり、住人は無料または低価格で使用できる。食事や掃除などのサービスはマンションの管理者が行う。定行さんは13～15歳まで両親と「サンセゾンI」で暮らし、毎日の夕食と風呂は他の住人とともに共同施設を利用、入居者との交流を楽しんでいた。現在は高齢者向けマンションとなっている。

仲良くなった入居者の部屋で茶道を習う。多世代とふれあえるのは共生型住宅ならでは

入居者が共同で開催したクリスマス会。季節の行事など、イベントは住人が企画していた



当時、「サンセゾンI」に入居していた大学生に、マンション内の学習室で英語を教わる定行さん（左）

多世代が共生する新しい居住スタイル

26年の人生において、定行泰甫さんは13回の引越しを経験している。初めての引越しは3歳のとき。父親の仕事の都合で東京都内の社宅からアメリカのコンドミニアムへ引越しして、5歳で帰国したのちも賃貸および分譲マンション、2世帯住宅、留学先の学生寮など、様々な形態の家で暮らしてきた。そんな多彩な居住歴の中で、初めて親元を離れ、自らの意思で選んだ住まいが「コレクティブハウス」である。

「コレクティブハウス」とは、専有の住戸以外に〝コモンスペース〟と呼ばれる共有のキッチンやリビングが確保され、住人同士が生活の一部をシェアする共生型住宅。2003年6月、日本初のコレクティブハウス『かんかん森』（東京都荒川区）が竣工。定行さんは建築家やコーディネーター、他の入居希望者とともに立ち上げのメンバーに加わり、オープンを待ってすぐに入居した。

ここでは週3回、〝コモンミール〟という当番制の食事が提供され、献立から買い物、調理まで住人が行う。野菜づくりや木工ができるスペースもあり、どれも自主運営・自主管理が基本。家事や余暇の時間を共有し、家族のような助け合いにより、快適な生活とコミュニケーションが維持されている。

両親が共働きで一人っ子の定行さんは、子どもの頃から近隣の住人たちと親しく関わり、様々な人とのつながりの中で成長してきたことから、大人になっても「多世代との接点がある暮らしが理想」と話す。

また、『かんかん森』に入居する前の中学・高校時代、共有施設付きの「サービス型賃貸マンション」（東京都北区）や、自主運営の共同住宅「コウハウジング」（アメリカ・バークレー）でも暮らした経験がある。子どもから高齢者まで、幅広い年齢層との交流が楽しい思い出として記憶に残っており、それが「コレクティブハウス」を選んだきっかけでもあったという。

大学時代の2年間を過ごした『かんかん森』では、60代の女性とルームシェアしていた。「なんでも相談できる友だちみたいな存在でした。お互いに退去した今も交流があり、かけがえのない人生の先輩」。年齢や性別を超え、血縁ではない他人と深い絆を結べるのは、多世代が集まる「コレクティブハウス」だからこそ。

だが一方で定行さんは、当時の気持ちをこう振り返る。「子どもの頃には分からなかった人付き合いの難しさを初めて意識することができた。また、様々な人との関わりの中で、〝家族は特別な存在〟だと実感するようになりました」。

引越しを経験するたびに、自分に合った生き方を住環境に求めてきた定行さん。その答えとして選んだ「コレクティブハウス」で、老若男女が共生する小さな社会を垣間見る。そこは、定行さんが人間関係を学び、家族のつながりを再認識した場所である。

（文責・CEL編集室）